

## 平成29年度茨城県立病院運営評価委員会（第2回）の開催結果

日時：平成29年11月8日（水） 17:55～19:15

場所：茨城県庁11階 1101会議室

### 【委員】

城西大学教授	伊関 友伸 氏
日製日立総合病院長	奥村 稔 氏
公認会計士	清水 至 氏
茨城県精神科病院協会長	高沢 彰 氏
筑波大学附属病院長	松村 明 氏
群馬県立小児医療センター院長	丸山 健一 氏
茨城県医師会長	諸岡 信裕 氏（委員長）
茨城県総合健診協会顧問（県医療改革担当顧問）	山口 巖 氏

### 【議事内容・意見等】

○平成29年度第1回委員会における意見への対応

意見	対応
収益を上げるには診療報酬上の加算の取得が重要なので、医療提供体制を向上しつつ、それをきちんと収益化する流れを、病院の体質として身につけてほしい。	病院事業に精通した事務職員を確保・育成し、新たな加算取得などの収益確保対策に継続的に取り組んでいく。 また、今年度新たに設置した「経営改善部会」において進行管理を行っている。
中央病院の救急車受入数が多くなっていくが、救急医療は若い研修医が集まるので、ぜひ充実させてほしい。	「救急医療は断らない」を合言葉に、引き続き全員参加型の救急医療を実践するとともに、救急専門医の確保を図るなど、救急医療の充実を努めている。
今後も高度医療を提供していくのであれば、患者の入退院支援を強化していくべきではないか。	中央病院においては、患者受入と退院支援の機能の一元化を図るため、本年7月に「地域連携・患者支援センター」を設置し、患者相談支援室と地域医療連携室の連携強化を進めている。

○主な意見

- ・ 経営基盤の安定化を図るうえで、不採算医療、行政的医療、一般医療などの区分ごとに見える化をすることは、県民に理解してもらうためにも必要ではないか。
- ・ 病院経営をしていくうえで、労働時間や残業時間の適正化などといった職員の働き方が重要になってくる。